

令和6年度オホーツク地域づくり連携会議（遠紋ブロック）議事概要

1 日 時：令和6年8月7日（水） 15：00～17：00

2 場 所：紋別市渚滑市民センター 大ホール

3 出席者：別添名簿のとおり

4 議事概要

（1）次期「オホーツク連携地域政策展開方針」の振興局案について

資料2によりオホーツク総合振興局澤見地域創生部長が説明

（2）新たな「地域づくり推進ビジョン」の素案について

資料3により網走開発建設部根田次長（港湾農水担当）が説明

（3）上記（1）（2）に係る意見交換

主な意見

【紋別市 宮川市長】

- ・外国人について、紋別市の人口比約4%（830人）程度が在住している。
今後、多文化共生社会をどのようにつくっていくかが重要となる。
安心して地域で暮らしていただけるような環境づくりが必要だと思っている。
- ・国際交流ステーションをつくり、外国人の支援を行っている。
- ・市として、研修実習生の方には、社会科見学、市民との交流会、日本文化の体験、日本語講座などを行っている。
- ・この地域が外国人を確保していけるのかということが、1番の不安材料。
- ・特に特定技能になると、家族帯同が許されることから、教育環境の整備、充実をどのように図っていくかということが課題。
- ・地域医療に関し、慢性期、回復期病床が不足する中で、現在、在宅医療体制の整備を進めている。
- ・在宅医療推進事業で、紋別医師会在宅医療部会と連携し、在宅医療に従事していただける体制を構築したところ。
- ・在宅医療支援診療所をもつ市内クリニックが中心となり、開設当初には、京都医療者集団の、K I S A 2 隊という団体の協力を得て、介護訪問看護事業との連携手法などを導入し、人材支援も受ける形で、新たな在宅医療の取組を構築しているところ。
- ・今後、団塊の世代が後期高齢者になり、慢性期の医療ニーズ増大が求められるなか、実績とノウハウをもつK I S A 2 隊の支援を受けながら、在宅医療がしっかりと機能するようになっていけば、地域包括ケアシステムも確実に寄与するものと期待をしているところ。
- ・ゆくゆくは広域紋別病院を中心に設立をした、地域医療連携推進法人オホーツク西紋医療ケアネットワークとも連携をしていければ、安心して暮らせる地域社会の形成に繋がっていくものと考えている。

【佐呂間町 武田町長】

- ・後継者不足が課題。アンケート調査によると、後継者がいると回答した農業者は25%程度。
- ・国際事情のなかで、食料の国内自給率を上げるというかたちで定義があるが、現状として、難しい部分がある。これからの佐呂間町の農業政策のなかで、具体的に検討しなければならない。
- ・農地拡大の方法として、4年輪作体系が有効かと考える。
緑肥の助成や交付金などのかたちで推進していくことで、農地を守れるのではないかと考える。
- ・佐呂間町は平坦な土地が少なく、細かい面積のところを有効的に使っている。
優良農地、特に平坦なところで、機械化できるところを集中的に作付していくような手段や、借地代や未使用地も助成する問題なども考えていかなければならない。
そういったことで、土地を守っていく考え方が必要と考える。

【遠軽町 佐々木町長】

- ・国も道も市町村もこれまでに作ってきた計画はみんな素晴らしかったが、結果に結びついていない。しっかりした検証が行われてきていない。
- ・施策の方向はこのとおりで良いが、実行に移すには必ず予算があり、法の改正などが必要になるわけで、ここの部分を具体的にどうしていくのか。
- ・「安心して暮らせる地域社会」というところが非常に弱い。毎回計画に載っているのに全く進んでいない。
- ・オホーツクは国に対して一次産業で大きく貢献しているのみならず、国防の面でも貢献している。
このことを、この計画やビジョンを実行するために大都市部に訴えていく必要がある。「オホーツクイメージの効果的な発信」が、重要な位置付けになっていくのではないかと考える。

【湧別町 刈田町長】

- ・「地域づくり推進ビジョン」のプロジェクトはハード系が多くて、「安心して暮らせる地域社会の形成」や「暮らしや産業を支える交通ネットワークの形成」といったソフト系が少ない。
- ・農林水産業の強化について、人材の確保とインフラの整備はこれからも続けていかなければならない。
- ・エネルギーの地産地消は非常に難しい。託送料金が必要となることから、マイクログリッドはなかなか作れない。
- ・人口定着は難しいが、季節によって人の足りない場所と空いている場所をマッチングして、人手を回していく方法を考え実施する組織を作れば、人材難の中でも上手く産業が回ると思う。

【滝上町 清原町長】

- ・太陽光発電が増えているのは結構だが、安全性が守られているのかわからない。乱開発についても不安を感じている。全道統一的な設置基準などを作るべき。
- ・風力発電について声はかかっているが、計画では電力がすべて域外に行ってしまい地産地消にならない。景観を損ね環境問題もあり、地域住民に対する説明責任が発生してくる。

- ・旭紋道の整備推進は大いに結構だが冬場の通行止めが頻発しており、物流を守るためにはバックアップルートである国道 273 号などほかの国道も一体的に考えた上で、ビジョンの推進をしてほしい。
- ・他の町村に漏れることなく人材・担い手が不足している。特に一次産業の農業・林業は顕著で、国や道と一体的にオホーツク地域の農業・林業を守るといった観点で進めてほしい。

【興部町 碓町長】

- ・滝上町、西興部村、興部町、雄武町が、遠軽方面と比べると、林業の従事者が高齢化している。
- ・外国人も製材工場に入りだしてはいるが、林業の現場には入ってこない状況。
- ・北森カレッジにオホーツクから入学する生徒がほとんどいない状況のなかで、地元の高校生にどうやって、林業を伝承していくかというのが、山を守っていくために重要な課題となる。
- ・昔と比較すると興部町の農協の組合員数は減少した。しかし、生産量はその頃と比較すると倍増している。そういった、意欲のある農業を奨励していかないと食料生産は維持できないということははっきりしている。なので、開発局や北海道で事業を行い、管内の基盤整備をしたことは間違いではなかったと思う。
- ・ただ市町村にすると、それが人口の減少に繋がってしまう。
人がいなくなるので医者がいなくなるため、医療の問題に繋がってしまう。
また、人口が減少すると、地域のあり方が変わってしまう。
変わったものを維持しないと農業、食料の生産も漁業の生産もできない。
- ・国のために食料生産をして欲しいと法律で書くのであれば、医者の配置、お産をきちっとできるような体制、そして J R はちゃんと残します、という 3 点セットで進めていただきたい。

【西興部村 菊池村長】

- ・人口減少について、ここ 5 年間で非常に大幅な減少をしている状況。
- ・器はあっても働く人がいないというなかで、特に福祉施設、特養とか障害者の施設があり、対応する職員がいなかったため、半分や三分の一にしろといっても、一気にというのが難しい状況。
今までのやり方をこれから変えていく必要性を検討している。
- ・介護職員やギター工場の若い人が村に来るが、すぐに辞めていくため、そういった部分で外国人を含めたなかで、具体的な施策、指導・支援などを振興局や開発局に色々な案をお願いしたい。
- ・特養に 2 年続けて毎年 7000、8000 万とつぎ込んでいるが、これに対する財源等は全くないため、何か良い支援的なものを今後ビジョンなどに入れていただきたい。
- ・鳥獣被害が非常に多い。
- ・シカの処理について、西興部村では対応出来ないため、処理するのにエスパス菌を使った処理をしているが、それが処理しきれなくて、湧別町の方の化製場に持ち込んでいる状況。
- ・1 頭 1 万円、国は 7000 円ということで助成を出してもらっているが、予算も全然足りない状況。
駆除に対する支援や処理に対する支援等について、何か方策に盛り込んでいただきたい。

- ・道路維持管理について、交通事故等防止のため開発局には引き続きお願いしたい。

【雄武町 高橋町長】

- ・オホーツクは食料安全保障を担う重要な地域であるため、そういった文言が北海道の方策の中に必要と考える。
- ・ネットワークインフラについて、携帯不感地域の解消及び今後のスマート農業に向けて構築していく必要がある。
- ・国営緊急農地再編整備事業雄武丘陵の事業により、効率的な農業に繋がり、生産性の向上が図られる。また、就労環境の変化により農家の負担が軽減されている。
- ・農家戸数を今後増やしていくというのは難しい状況。
そういった意味では、今後スマート農業などが主役になっていくと推察する。
- ・農業において、昔と比較し変化したことは、耕作放棄地について、韃靼そばの栽培を始め、栽培面積が非常に大きくなってきたため、今後１次産業に係る生産は増えていくと推察する。
- ・２次産業の加工の部分では外国人材に頼っていることが非常に大きい。
町の人口約 4,000 人に対し約 300 人の約 1 割程度が外国人材である。
昨年の外国人技能実習制度の改正もあり、今後どのように外国人材を確保していくが課題。
それに伴い今後、居住環境の整備も検討している。
- ・シカのみならずヒグマ対策についても目下の問題として懸念。
- ・コロナ等の未曾有の事態についての対策について、事象発生時に受ける影響が甚大のため、何らかの対策を考えていく必要があるのではないかと考える。
- ・オホーツク地域は地域医療体制が非常に脆弱。
産業、経済が伸びている中で、地域医療も両輪で底上げを図っていくことが大事。

【北見地方木材協会 江本会長】

- ・コロナ禍以降、物価高等の影響で住宅着工戸数は大幅に減少。
特にゼロカーボンに貢献している木材住宅は苦戦している。
- ・人手不足が課題。人材確保のためには、医療、教育、飲食環境等の充実、都市部への交通費の軽減などの地域づくりが必要。
- ・物価高や人口減少等の影響で社会情勢が変化しているため、補助金の規定の見直しを行い、予算を配分していただきたい。
- ・森林環境譲与税の算定面積について、国有林も対象にしていいただきたい。
- ・北海道の木材産業協同組合連合会で公共建築物の木造化を推進しているため、ゼロカーボンの取組に興味・関心がございましたらご相談等承ります。

【北見管内漁業協同組合長会 阿部会長】

- ・ホタテ貝殻の処理の問題が出てきた。
ホタテ貝殻はこれまで畑の暗渠などに利用されていたが、貝殻を畑に入れることにより、ジャガイモに傷が付いたり貝殻が食い込むことを理由に、今年度から暗渠への利用が出来

なくなった。

- ・ホタテ貝殻の再利用について検討しているが、国、道、市町村の皆様にも検討をお願いしたい。
- ・漁船の大型化が進んでいるため、漁港の整備をお願いしたい。
- ・陸上の作業施設も老朽化により建替の時期に来ている。

これまで補助事業を使っていたが、補助事業の制約が多く漁業者が使いやすい施設を作ることが難しいのが現状である。

- ・H A C C Pの対応として、それぞれの組合で加工場を整備したが、人手不足が課題となっている。現在は外国人に頼っているが、今後の対応について検討が必要である

【オホーツク観光連盟 長谷川副会長】

- ・人手不足、人手不足に関係するバスの問題、二次交通など色々な部分に弊害が生じている。
- ・興部町のアイスクリーム、雄武町の韃靼そばなど、この様なものが、地域に沢山根付いていて、観光資源が多くある。
- ・地域の中には知らない素材が多くあり、これをどうにかしなければならんと思っている。
- ・こういった地域でシーニックカフェも増やしていきたい。
シーニックバイウェイで地域の観光資源・素材を磨き上げていきたいので、開発建設部でPRするなど情報発信の強化をお願いしたい。
- ・高規格道路の整備も重要。

○その他（１）～（３）

- （１）資料４及び参考資料１により、網走開発建設部 谷江地域連携課長から情報提供
- （２）参考資料２により、オホーツク総合振興局 阿部地域政策課長から情報提供
- （３）口頭にて、水道施設の耐震化及び異常気象時の対応について網走開発建設部 半谷部長から情報提供

○閉会